

第19番 立江寺

●徳島県小松島市立江町字若松13
☎0885-37-1019
●宿坊／あり(要予約)



第20番 鶴林寺

●徳島県勝浦郡勝浦町生字鷲ケ尾14
☎0885-42-3020
●宿坊／あり(休館中)



沿線の見どころ



JA東とくしまよってネ市

年間を通して販売するみかんを目当てに、多くの人を訪れる、勝浦郡の自然の恵みが集まるJA東とくしまの産直市。約300人の地元の農家から届く新鮮な野菜や果物、花、漬物など特産品の直売が行われ、その安さも魅力。旬の野菜を使った寿司や惣菜なども人気だ。地元の人たちとの交流も楽しみの一つ。



境内の見どころ



本堂の天井画

向かって左に観音堂、右に護摩堂を有する本堂は、昭和49年(1974)の火災で焼失後、昭和52年(1977)に再建されたもの。当時の東京芸術大学の教授や助教授ら40名余りが描きあげた絵が鮮やかに天井を彩る。賓頭盧尊者(びんずるそんじゃ)と寿老人の像もあり、息災延命などの願いが叶うといわれている。



境内の見どころ



黒髪堂

夫がありながら男と不義密通を犯したお京という女は、ある日男を手引きし夫を殺してしまう。自害しきれず四国巡礼を始めた二人が、この寺に辿り着き地蔵尊を拝もうとした時、お京の髪の毛が逆立ち、鐘の緒に巻き上げられた。あわてて懺悔をし命が助かったお京は、その後出家し生涯を終えたという。



広い境内だけに見どころも多い

第19番

立江寺

きょうちざん まにいん たつえじ

荘厳な本堂を絵天井が彩る

歴史・全体像

天平19年(747)、聖武天皇の勅願により行基が光明皇后の安産を願いつつ、念持仏として一寸八分(5cm余り)の金の地藏菩薩「延命地藏尊」を本尊として堂塔を建立したのが始まりといわれる。その後、弘仁6年(815)に弘法大師が訪れた際、この像の紛失を危惧し、自ら6尺(約1.8m)の地藏尊を刻み、小さな金の像をその胸の部分に納めて安置。この時、寺号を立江寺とし、霊場第19番に定めた。天正年間に兵火で本尊のみを残して焼失した後、阿波藩主・蜂須賀家政公によって再興。昭和49年(1974)にも不慮の火災で本堂などを焼失したが、本尊はまたも奇跡的に難を逃れた。

境内

境内に入ると、すぐ右手に子授地藏尊がある。行基が光明皇后の安産を祈願して開基したことから安置されたこの地藏は「子安の地藏尊」や「立江の地藏さん」などの愛称で呼ばれ、地元の人たちから親しまれている。立派な多宝塔をはじめ見どころが多く、特に本堂の天井画は文化財として高く評価されている。修行大師像は本堂の正面にあり、大師像の足下では先祖供養の経木流しをすることができる。また、この寺は四国八十八ヶ所霊場の根本道場といわれ、阿波の関所寺でもあったため、邪悪心の持ち主や、罪を犯した者が訪れると罰が下るとの言い伝えがある。

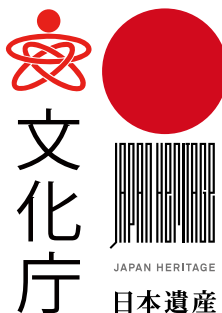


堂々とした本堂は天井画で知られる



御詠歌／いつかさて西の住居のわが立江弘誓の舟にのりていたらむ
本尊／延命地藏菩薩
真言／おん かかかび さんまゐい そわか
宗派／高野山真言宗
開基／行基菩薩

所 徳島県勝浦郡勝浦町生字太田45-1
☎ 0885-42-4930
🕒 7:00～17:00
🌿 月曜(祝日の場合は営業)



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



